

発表演題:PRP・PRF を応用した再生療法の最適化

著者名:奥寺俊允

抄録:

デンタルインプラントの長期予後安定の条件として十分な軟組織と硬組織が必要である事は周知の事実である。特に不足した硬組織を再生する為に種々の骨造成法が臨床応用され予知性の高いインプラント治療が確立されてきている。自家骨移植はその優れた骨伝導能、骨誘導能を有したゴールドスタンダードであるといえる。しかし手術侵襲と困難な手技であるため全てのケースには適用としないことから、今日では他家骨、異種骨、人工骨の使用が増加している。それらは優れた骨伝導能は有するが、骨誘導能を欠いている。これを克服するために、成長因子を利用して細胞の分化誘導を促進させ、骨形成の速度および量の両方を増加させることが試みられている。

PRP や PRF に代表される自己血液から抽出された血小板由来の多数の成長因子は血管や骨の新生が顕著である。特に PRF は動物由来や合成物質等の添加剤を一切用いないため安全性が高く、また非常にシンプルな生成法であり、臨床家の中で広く応用されるようになってきた。2001 年の Choukroun の論文発表以降、生成法について検証され CGF 等の改変法などにより、臨床応用の幅も広がった。本邦でも多くの臨床家が使用し、その工夫もなされてきている。そこで今回のプレゼンテーションでは各骨造成に最適な PRF の加工とその手順について臨床ケースを交え報告したい。